

＼みんなで考えよう！／

オーノまちづくり ワークショップニュース

vol.
3



相模原市は、相模大野駅周辺地区を対象に、地域住民や事業者のみなさまが主体となって実現する「まちづくりのアイデア」を検討するため、全5回のワークショップを企画しました。

このワークショップでは、「相模大野に住む人・来た人にとって、居心地がよいまちづくり」をコンセプトに『相模大野をどんなまちにしたいか＝まちのコンセプト』や、『どのような場所で、どのような盛り上げ方ができるか＝公共的空間の活用方策』など、様々なアイデアを出し合い、まとめることを目指します。

今回、5月29日（日）に行われた第3回ワークショップでは、「まちのコンセプトを具体化しよう」をテーマに分野ごとのチームで活動がス

タート！ワークショップニュースではその第3回ワークショップの様子をお届けします。

相模大野シビックアクションプランを策定しよう！

ワークショップ冒頭、ファシリテーターの小泉瑛一さんより、ワークショップ全5回終了時に「相模大野シビックアクションプラン」の策定を目指すことが発表されました。シビックアクションプランとは、市民である私たちが自らまちを変えていくための宣言や目標、それに伴う実行計画のこと。相模大野をさらに居心地のよいまちにするため、このワークショップを通じてあらためて相模大野と向き合い、私たちにできるシビックアクションプランを考えていきます。

まちのコンセプトを具体化しよう！

第2回ワークショップでは、「“三核”構造から市民“参画”の構造へ」をテーマに、相模大野のなかでまだ市民参画ができる“余白”はどこにあり、何ができるのかを話し合いました。そして、出てきた余白は「カルチャー」、「ワーク」、「アウトドア・スポーツ」、「グルメ・マルシェ」、「子育て」の5つの分野に分けられ、参加者も分野ごとのチームを編成しました。

前回のワークショップから今回までの間、参加者は、SNSを通じて、各チームの分野でどんな

ことをしてみたいかなどを共有していました。今回はその意見や前回のワークショップ結果を基に、市民参画ができる“余白”を実際に訪れ、参画の輪が広がるような企画を考え、まちのコンセプトの具体化を目指しました。

まずは、フィールドワークの場所を決めるグループワークを行いました。その際、「企画のタネ（一番大切に考えたいテーマ）」は何かを明確にすることで、フィールドワークで、どんなことに注目するのかを考えました。

フィールドワークに出かけよう！

ほとんどのチームの目的地になった場所は相模大野中央公園！芝生が広がり、樹木も多く、水辺もある自然豊かで広い相模大野中央公園は市民の憩いの場所です。遊具で遊ぶ子供や、レジャーシートを敷いてピクニックを楽しむ親子がいました。

一方で、ワークチームが訪れたのはコリドー街付近の空きテナント。新型コロナウイルスの影響で閉店となってしまった店舗も多くあり、そこを活かすことができるのでは、と考えました。

当日は晴天に恵まれ、気温も高く、フィールドワークにピッタリのお天気でした！



フィールドワークの様子

フィールドワークで得た“きづき”を基に、各チームで企画の作成作業を行いました！前回のワークショップで見つけた「参画の余白」からさらに検討を進め、いつ、どこで、だれをターゲットに、どんなことをするのか、それを通じて最終的に達成したいことは何か、までを具体的に話し合い、発表しました。

活気のある相模大野の実現を目指し、若い世代やファミリー層をターゲットにした様々な企画が挙がりました。

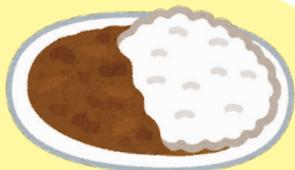
ビジネスを通じてまちの活気を取り戻したい

商店街などの現状を把握するため空きテナントを見学したワークチームは、若い世代が空きテナントを借りるチャンスを作る「ビジネスプランコンテスト」を企画。U35世代を対象に、日常的な空きテナントの利用を募ることで、ビジネスを通じてまちも活気づくのではと考えました。テナントが埋まり、賑わいのあるまちを最終目標として、相模大野駅に来る人とテナントの数をさらに増やすべきと話しました。



ワーク

グルメ・マルシェ



食を通じて、人とまちを繋ぎたい

隣の町田駅には少ないファミリー層をターゲットに考えたグルメチームは相模大野中央公園には遊具もあることから、空間を利用して子供が遊べるスペース、食を楽しめるスペースなどを作りたいと考えました。カレーやキャンプなどのテーマで開催時期に合わせて変わる「キッチンカーや屋台が並ぶマルシェ」を企画。地元の食材を使用したメニューを屋台で出すなど地産地消も目指し、最終的には、回遊が生まれ、通年賑わっているまちになると良いと話しました。

カルチャー



学生×地域

若い世代を中心に活動を発信できる場を作りたい

相模大野中央公園のほかに相模女子大学の見学も行ったカルチャーチームは、学生と地域をつなぐ取組として、まちの小さなドラマをショートフィルムに収める「ショートフィルムコンテストの開催」を企画。相模大野中央公園にスクリーンを設置し、上映ができるのでは？と考えました。学生主体の活気あるまちづくりを最終目標として話しました。



アウトドア・スポーツ

スポーツを通じてコミュニティを作りたい

相模大野中央公園を見学した結果、「なんでもできそう！」という話になり、「それならなんでもやってみよう！」と相模大野中央公園を中心にした「スポーツフェス」を企画。1日を通してさまざまなアクティビティを実施したいと話しました。さらに商店街を歩いてポイントを貯める「ウォーキングイベント」も企画としてあがりました。「身体も心もまちも元気な相模大野」を目指して、老若男女すべての人が参加できると良いと話しました。

楽しく安心して子育てできる場にしたい

相模大野中央公園を見学して、まだ使える空間があると話し、水辺の広場の水質についてなどの課題を発見。売店の跡地を活用してキッチンカーやカフェテラスを出したり、水辺に魚を入れてみたり、森林に巣箱を設置してバードウォッチングなどたくさんの企画があがりました。相模大野の強みは、駅の近くに相模大野中央公園などの自然豊かな空間があることだと話し、まちのなかで自然に触れ合える場を目指しました。

子育て



各チームの企画内容

今回のワークショップでは、各分野に分かれて、フィールドワークを行い、実際に相模大野の“余白”を見ることで、市民参画ができるような企画をさらに具体的に考えていきました。

次回、6月26日(日)のワークショップではシビックアクションプランの策定がスタート！過去3回のワークショップを活かしてより良い相模大野シビックアクションプランを考えます！



コンセプトを持って歩いてみると、漠然と歩いている時と違って、まちの良さが見えたんじゃないかと思います。あえてターゲットを絞って考えていくとまちづくりを具体的に考えられると思います。

ファシリテーター・
小泉瑛一（こいずみよういち）さん



みんなに相模大野のことを考えていただけることは、本当に嬉しいこと。これからもみんなで相模大野のことを考えて、語り合えるように、もっと活気あふれるまちになると良いと思います。

菅谷貴子（すがやたかこ）南区長

みんなで考えよう！
オーノまちづくりワークショップニュースvol.3
発行日 2022年6月20日
作成 さがまち学生クラブ 大津優衣

発行 相模原市 南区役所地域振興課
TEL:042-749-2135
E-mail: m-chiikishinkou@city.sagamihara.kanagawa.jp